

10/11
朝日

介護従事者も利用者も守る策を

訪問介護ヘルパー

(東京都 23)

新型コロナウイルスで亡くなった広島県の82歳の女性の遺族が「感染させたのはヘルパー以外に考えられない」として、訪問介護業者を提訴した。訪問介護ヘルパーである私にはひどいことではない。ヘルパーはもちろん万全の対策が必須だが、このような訴訟が今後も相次いだら、訪問介護などできなくなってしまうと感じた。

誰だっけ感染したくないし、感染させたくない。しかし仕事柄、リモートワークなどできるはずもなく、自らも感染のリスクを抱えつつ、利用者の生活を支えるために仕事をし

ている。慢性的に人手不足の介護業界だ。このヘルパーは、仕事を休みづらい状況だったのかも知れない。また事業所から手袋や消毒薬などは十分支給されていたのか。コロナ禍の中で働く医療や介護従事者は責任をどこまで負うのか、という問題も浮き彫りになったように感じる。

利用者に絶対にうつしてはダメ、感染させたら事業所が責任を負わねばならないというなら、体調に不安を感じた人が安心して仕事を休めるだけの人員を確保できるようにしていくべきだ。そして国にも、介護現場の声を聞きながら、この課題をどう解決すればよいか考えてほしい。